

栃木中央地域包括支援センター

- 日 時： 令和6年6月18日（火）午後1時30分～1時50分
- 会 場： 栃木市役所
- 事例数： 1ケース（令和5年12月19日検討した事例の振り返り）
- 参加者数： 10名

〔事例提供者1名、助言者7名、包括職員2名〕

腰痛や膝痛等があるが医療機関未受診の 75 歳女性

〈目標〉1日:日々の暮らしを安全に送る。

1年:現在の生活を維持する。

利用サービス:訪問介護(基準緩和型)

《前回会議での支援策》

支援方針:改めて医療機関につなげていくことをすすめていく。口腔運動も声掛けしていく。

助言内容

- ①食後のブラッシングを毎回行うように声掛けが必要である。嚥下機能が低下している可能性があるため、パタカラ体操等、舌の体操をできるとよい。
- ②酢は体内に入ると酸性になるため、歯の表面を溶けやすくする。食後に水で口をゆすいで欲しい。寝る前に歯みがきをして欲しい。
- ③健康診断を受診するよう勧める。
- ④転倒予防のためトイレ等の動線を確保する。
- ⑤ふれあい在宅サービスを導入し住環境整備を行う。
- ⑥新聞を声に出して読むことでむせの予防につなげる。

《支援結果・状況》

- ①②達成:食後に口をゆすぐようにしている。歯磨きは昼夜2回実施する。声を出して口の体操を行うようになった。
- ③未達成:何ともないので不要であると健診には結び付かなかった。
- ④⑤未達成:室内を片付けてトイレまでの動線を確保するよう提案するが、まだ大丈夫ですと変化がなかった。
- ⑥未達成:新聞を読むが、音読はしていない。